

合成副腎皮質ホルモン剤

ケナコルト-A[®] 筋注用
水懸注40mg/1mL 関節腔内用

KENACORT-A[®] INTRAMUSCULAR
INTRAARTICULAR

トリアムシノロンアセトニド水性懸濁注射液

筋肉内注射時の注意とお願い

— 筋肉内注射による皮膚陥没・萎縮について —

2018年2月

ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社

平素は弊社製品に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ケナコルト-A 筋注用関節腔内用水懸注 40mg/1mL(ケナコルト-A)において、筋肉内注射による皮膚陥没の事例が報告されております。

筋肉内注射をする際には、添付文書の「重要な基本的注意」および「適用上の注意」をご一読頂くとともに、**患者さんに以下の注意事項を説明して頂きますようお願い申し上げます。**

【患者さんへの注意事項】

- 筋肉内注射時には、注射液が脂肪層に逆流し、萎縮による皮膚陥没を起こすことがあります。患者さんに対して、このことをあらかじめ説明してください。
- 注射部位をもまないように患者さんにご指導ください。なお、注射部位をもまない場合でも萎縮による陥没が起こることがあります。

陥凹・萎縮について

注射部位の陥凹・萎縮とは、注射部位が著しくへこんでしまうことです。特に女性にとっては美容的にも大きな問題となります。

これは糖質コルチコイドが脂肪組織に長く貯留すると、脂肪の分解を増大させ、また糖の取り込みを阻害して脂質生成を阻害し、さらに線維芽細胞の働きなどを阻害することでコラーゲン、ムコ多糖類およびエラスチン*の合成を減少させ、皮下組織に影響を与えることから生じると考えられます。(*: 弾性線維を構成する主な蛋白質)

また、ケナコルト-A によって生じた脂肪萎縮(localized involutinal lipatrophy)は、自然消褪することもあると報告されています。

なお、陥凹を起こした場合は外科手術を行う前に、一度皮膚科専門医等にご相談ください。

裏面もご参照ください。

注射部位に生じた脂肪組織萎縮(陥凹)の症例

【症例 1】

症 例:30 歳代、女性

主 訴:左上腕外側の陥凹

既往歴:20 歳代 不妊症、30 歳代 花粉症

現病歴:左上腕外側に軽度の違和感、2 日後に同部位が軽度陥凹、約 2 ヶ月後、皮膚の陥凹は拡大

現 症:左上腕外側に 29×18mm の比較的境界明瞭な淡紫紅色調の楕円形の陥凹(写真)

内科にて皮膚陥凹発症の約 3 ヶ月前に左上腕部へ花粉症の治療として本剤 40mg を筋肉内注射、別の内科でも花粉症の治療として本剤 40mg が右臀部に皮下注射されており、臀部にわずかな皮膚陥凹があった。

経 過:皮膚生検の結果、localized involutinal lipoatrophy と診断した。経過観察で左上腕部の陥凹は徐々に回復し、約半年後には陥凹と色調の変化はなくなった。



陥凹発現時の写真

出典:Visual Dermatology 1(8)926-929:2002

【症例 2】

症 例:20 歳代、女性

主 訴:右上腕部外側の陥凹・色素脱失

既往歴:アレルギー性鼻炎 花粉症

現病歴:右上腕外側の陥凹変形、色素脱失

現 症:右上腕外側に 29×23mm の色素脱失を伴う脂肪陥凹

皮膚陥凹発症の約 4 ヶ月前に内科を受診。花粉症がひどく速やかに症状を抑えたいと訴えたところ、右上腕部へ花粉症の治療として本剤 40mg の筋肉内注射を 1 回実施。

経 過:1年経過後も患部の皮膚陥凹や色素脱失は残存。